

複数施設研究用**機械学習を用いた間質性肺炎急性増悪発症と予後の予測モデルの構築に関する
情報公開****1. 研究の対象**

2007年4月～2019年12月までに研究参加施設で間質性肺炎の診断を行うために必要な問診(喫煙歴、生活歴、症状、受診までの経過など)・検査(血液検査、胸部画像検査、呼吸機能検査など)が行われた20歳以上の方。

2. 研究目的・方法・研究期間

間質性肺炎は、肺の間質を炎症や線維化病変の場とする疾患の総称で、国の難病に指定されています。特に、特発性肺線維症(IPF)は、肺の線維化が進行性に悪化し、生存期間中央値が3～5年と予後不良の疾患です。中でもIPF急性増悪は約10～20%の患者さんに発症し、2人に1人が死亡する極めて予後の悪い合併症です。また近年ではIPF以外の間質性肺炎でも急性増悪を起こし、予後に大きな影響を与えることが言われています。このような急性増悪を発症する危険性について把握することは重要と考えられますが、従来の方法ではあらかじめ発症を予測することは困難でした。そこで近年医療への応用がなされている人工知能と従来の検査を組み合わせることで、急性増悪の発症と予後を事前に予測できる可能性があります。

そこで、2007年4月～2019年12月に、研究参加施設で間質性肺炎の診断を受けられた患者さんの診断情報を収集し、従来の検査の組み合わせで急性増悪発症と予後を事前に予測する方法を検討するため、該当する患者さんの診療情報を収集して、広義の人工知能を用いて解析を行います。解析は名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター及び名古屋工業大学大学院工学研究科で行われます。研究期間は2020年12月17日(実施承認日)から2025年12月31日までを予定しております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療情報(カルテ)から、年齢、性別、喫煙歴、原疾患、血液検査、画像検査、呼吸機能検査、入院情報等の情報を収集します。

4. 外部への試料・情報の提供

収集した情報は定型化された電子データベースに研究者が直接入力し、電子媒体に記録します。電子媒体は特定の関係者以外がアクセスできない状態で保管され、研究責任者・研究協力者によって解析施設(名古屋大学・名古屋工業大学)に移送され、専門的解析を行います。

5. 研究組織

1 研究責任者（所属・職名・氏名）

名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター・特任助教・古川大記

2 研究分担者（所属・職名・氏名）

名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター・医員・寺町涼

名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター・病院教授・白鳥義宗

名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター・特任助教・大山慎太郎

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・准教授・橋本直純

名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科・病院助教・阪本考司

3 共同研究者（所属・職名・氏名）

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・近藤康博

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・部長・片岡健介

浜松医科大学 内科学第二講座・教授・須田隆文

浜松医科大学 内科学第二講座・特任助教・穂積宏尚

名古屋工業大学大学院 工学研究科・准教授・烏山昌幸

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター

特任助教・古川大記

〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター

直通電話番号：052-744-1977

FAX 番号：052-744-1916

研究代表者：

名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター・特任助教・古川大記